

活動紹介 渡邊とみ子

福島で生き・福島で育
み・福島から繋いで行
くという事



もくじ



1 : 自己紹介
2 : 私の原点～飯舘村での暮らし～
3 : イータテベイクじゃがいも研究会
4 : 原発事故～全て奪われてしまった～
5 : かーちゃんのか・プロジェクト開始
6 : 自立に向けて

1954年

1993年

2005年

2011年3月11日

2011年10月



1 : 自己紹介



渡邊 とみ子

- 1954年1月生まれ
福島市（水原）出身
- がーちゃんのか・プロジェクト協議会代表



2：私の原点～飯舘村での暮らし～



「**女性**も地域のリーダーとなり、自分達の地域の事は自分達で考えて行く」**地域づくり**の活動が原点です。

1

飯舘村
第4次総合計画
地区別計画策定・推進委員
としての活動
(1993年)

- ・補助金（10年間で1,000万円）を各行政区に配布し、住民と行政が協働で**地域づくり**をするという活動です。
- ・当時は、**女性**が表舞台に立って意見することはあまり馴染まない時代でした。

2

市町村合併を考える
村長の諮問機関
「村民企画会議」委員
としての活動

- ・合併是非が村を二分する中でも、“飯舘村”を無くしたくないという強い思いがありました。
- ・区長会会長、商工会会長など男性ばかりの場に、**普通の主婦**である私が、住民代表として参加しました。

・地域づくりに参加し、「飯舘村で暮らす」という事を真剣に考えられるようになりました。

3 : イータテベイクじゃがいも研究会



「地域づくりで夢・目標を持ち、それを具現化するという思考回路」で頑張ってきました。

イータテベイク
じゃがいも研究会
会長
としての活動
(2005年6月)

・飯舘村出身の菅野元一氏が自ら育種し、品種登録した飯舘村オリジナルのじゃがいも「イータテベイク」と、かぼちゃ「いいたて雪つ娘」を、「自立を選んだ飯舘村の地域振興の為に」と提供して下さり、農業委員会と菅野氏との話し合いの中から、研究会が発足しました。



イータテベイクの花

しかし

言いだしっぺの農業委員会会長はじめ、農業委員会のメンバーが軒並み脱会

・最後まで残ってくれたメンバーの励まし

・育種者 菅野元一氏の思いを無駄にしたくない

3 : イータテベイクじゃがいも研究会



加工施設
「までい工房美彩恋人」
の立ち上げ
(2007年4月)

- ・ 美彩恋人(びさいれんと) = Be silent.
- ・ 「イータテベイク」や「いいたて雪っ娘」の生産・加工・販売をする。

し
か
し

- ・ お金のない私には辛い起業でした。
- 「加工はしたいが、お金は出せない」という仲間たち

【研究会・加工施設の立ち上げ
から学んだこと】

仲良しグループ・サークル感覚では駄目ということ。

4：原発事故～全て奪われてしまった～



「イータテベイク」がようやく世の中に出せる、そう思った矢先の**原発事故**でした。

イータテベイク、種芋生産
が国から認可される
(2010年)

イータテベイクの種芋生産は国家管理で、種芋生産がようやく国から認められて始まったのは平成22年でした。私も馬鈴しょ植物防疫補助員として何としても世の中に出す為に頑張りました。その結果、飯舘村で原種栽培が合格になり、**23年度産で採種が合格すれば念願の世の中に出せる段階**になっていました。



工房前、入口



飯舘村での生産はできなくなりましたが、これまでの**思いと活動**をそう簡単に諦めたくはありませんでした。

避難先にて、種をまく。
(2011年5月)

- ・イータテベイクもいいたて雪っ娘も作付時期を迎え、先の見えない中での生産でした。
- ・何とか種繋ぎをしようと必死でした。そして5月には、避難先で畑を借りて種を撒き、未来に繋げる種を収穫しました。



種芋生産の第1期検査
ばれいしょ植物防疫補助員の仕事



夫の理解が一番の
原動力



いいたて雪っ娘の芽が出た。
こんな条件の中でもちゃんと
芽を出してくれてありがとう



避難先でいいたて雪っ娘の
収穫際を開催

5 : かーちゃんのカ・プロジェクト開始



飯舘村で繋がりのあったかーちゃん達を一人一人訪ね歩くことから始まりました。

・かねてから飯舘村の地域づくりに関わっていただいていた福島大学の先生から「とみ子さん、今どうしているの？」という電話があり、直接お会いして「かーちゃんのカ・プロジェクト」の構想を聞きました。

・飯舘村と同じように原発事故の避難者であり、**畑も加工場も奪われて**しまって生きがいをなくしてしまったかーちゃん達が、食に関する技や味を伝え、地域を元気づけることを目標にした活動のお話でした。



・避難後の生活、今後どうしたいかなどを訪ね歩きましたが、その当時のかーちゃん達からは、「**先の見えない中**でこの先どうしたいかは考えられない」「自分達が作った物が使えなく、他で作られた物を買って使ってまではできないし、**意味がない**」とマイナスの言葉が目立ちました。



・しかし、仮設で支援だけの生活ではなく、自分達で**動き出したい！**誰かが引っ張って行ってくれるのなら動き出せる気がする、という声も聞こえました。

「結もち プロジェクト」 の開催へ。

かーちゃん達を
一人一人訪ね歩く
(福島大学小規模自治体研究所
契約職員として)
(2011年10月)



5 : かーちゃんのカ・プロジェクト開始



「結もち プロジェクト」をきっかけに、かーちゃん達に笑顔が戻ってきました。

「結」
(2011年12月)

・当時、福島の玄米から国の基準の500ベクレルを超えるセシウムが検出されて、福島の米が使えない状態でした。困った私達の為に、福島大学の先生が兼ねてから交流のあった、新潟県石打地区から、もち米と青肌大豆の提供がありました。「中越地震でお世話になったからお返しです」という温かい心遣いが、私達の第一歩になりました。

・人と人を結ぶ、地域と地域を結ぶという「結」の気持ちから「結もち・プロジェクト」としました。このプロジェクトがきっかけで、かーちゃん達に笑顔が戻ってきました。そして、「またやりたい!」という声があがったのです。



5 : かーちゃんのカ・プロジェクト開始



福島県地域雇用再生創出・
モデル事業として、
かーちゃん達12名の雇用
が始まりました。
(2012年4月)

・健康弁当や、漬物、お菓子等の製造販売ができるようになり、拠点としている「あぶくま茶屋」にはかーちゃん達の賑わいにあふれています。



漬物づくり (2012年1月)



増える新商品 (2012年5月)



放射能検査後の無残な検体



かーちゃん弁当の研究開発 (2012年5月)

6 : 自立に向けて



組織	1	協議会の在り方	<ul style="list-style-type: none">・協議会は、任意団体です。今後いろいろな契約等も含めて法人格をもった組職作りを検討しなければなりません。・指示待ちではなく、「自分達の事は自分達で考え行動する」意識づけが重要です。
	2	経営感覚・バランス感覚	<ul style="list-style-type: none">・経営感覚は大切です。今年になって、かーちゃん達は積極的に原価計算をするようになりました。・営利事業と非営利事業の両立をどうやっていけば良いのかというバランス感覚も重要です。
個人	1	モチベーションのコントロール	<ul style="list-style-type: none">・緊急雇用の性質上、代表の私は給料も保証もなく、ボランティアでの活動に限界を感じることもあります。モチベーションが下がらないよう、自分自身をコントロールしています。
	2	個人の夢	<ul style="list-style-type: none">・イータテバイク、いいたて雪っ娘を使った商品の加工販売を行うという夢・目標がありながら、立場や施設、設備等で出来ない苦悩もあります。



あきらめないことにしたの

あきらめないことにしたの

沢山悔しい思いをしたよね

沢山、沢山泣いたよ

でも、生きてる

やっぱり止まっては駄目だよ

どんなに小さな一歩でも前へ進んだら

ほらね。実ってくれたんだもの

植物は、こんな状況の中でも

頑張つて生きているんだもの

だから私は

あきらめないことにしたの





ありがとうございました。